

人の役に立つ商品を作ることが私の大きな幸せ

株式会社 さくらコットン 代表取締役 菊川 あずささん

PROFILE

きくがわ・あずさ
1974年北海道生まれ。
高校卒業後、アメリカへ語学留学。添乗員やワーキングホリデーでカナダに。出産後、デザイン文具メーカー・ミドリ勤務。2010年、今治ママ★コレ発足。12年株式会社さくらコットン設立。ヒエトリパットの開発事業で、えひめビジネスプランコンテスト最優秀賞受賞。夫と1男1女の4人家族。趣味は旅・読書。
今治市在住。

Q&A

◎病気を公表することに抵抗は？

ホルモンのバランスが安定していない女性も、少しの工夫で私のように回復することがあります。自分の経験を語ることで、元気になってもらえたらと思っています。

◎これからの女性にメッセージを

自分が好きなことを忘れないで、大切に生きてほしいです。社会に役割があると、家庭で何かあっても自分の世界を守ることができると思います。



店頭に並んだカラフルな布。「さくらコットン」のスタッフが、企画から縫製、販売まで手がける「ヒエトリパット」。代表の菊川あずささんが女性の健康のために、改良を重ねて作り上げたオリジナル商品です。

北海道出身の菊川さんは2004年、今治に移住。自身と同じ、市外から嫁いできた人たちと過ごす時間は、それだけで癒され、自営業の女性たちとも輪がどんどん広がりました。2010年、菊川さんは「今治ママ★コレ」を発足します。

やがて「家庭に入った女性にも、家庭以外の場所が必要では」と、菊川さんは考えるように。活躍している女性を紹介する冊子「ママ★コレ」を刊行。みなで成長しあえるよう、子育て講座や起業家セミナーも開催します。

菊川さんは10歳から子宮内膜症に悩まされてきました。「ママ★コレ」活動を展開していたころ、友人が作った

布ナプキンを初めて使用し、その不思議な感覚に驚きます。今までさまざまな対処法を試したものの、改善されなかった日々。しかし、布ナプキンでは「びっくりするほど」体調が回復。「今治タオルで作ったら、もっと使い心地



手作業にこだわり1時間に2枚しか作れないヒエトリパット

がいいのでは」。布ナプキンと地場産業が結びつきました。

直接肌に触れるものだから、オーガニックなどの生地こだわりたい。商品名も、贈り物になるようなイメージに。100人以上の女性からアンケートを取り、意見を収集しました。試行錯誤を繰り返すうちに、外出先の取り換えや、汚れがとれないという洗濯の問題が出ました。菊川さんは「まずは、何もない日に使用して、体を温めることを知ってほしい」と提案します。「毎日使いたくなるように、実用的なのはもちろん、デザインも大切」と、布選びにも力を入れました。

改良を重ねること1年半、2012年1月「布ナプキン型ライナー・ヒエトリパット」が商品化されました。

「さくらコットン」は、現在34名のスタッフで構成されています。募集をかけたことはなく、「ヒエトリパット」を

気に入ってくれた全国各地の人がサポートしてくれています。縫製、販売ホームページの管理まで、遠くは北海道在住のスタッフもいるそう。

設立には愛媛県の助成金も利用。地元の財団からは、価格設定やマーケティングの指導などを受けました。

「長年不妊に苦しんでいましたが、体調がよくなりました」と、お便りをもたらすことも。菊川さんは、とても嬉しく、励まされたといいます。

こだわりの詰まった「ヒエトリパット」を手に取り、菊川さんは思いを語ります。「病気で働けなくなった時から、回復したら人のためにできることをしようと決めていました。私にとつて、人の役に立つ商品を仲間と作っていくことが、大きな幸せです」

手を差しのべてもらった恩を忘れずに、「誰かのために」と考える菊川さんの周りには、人の輪が広がっていきま